第３７回市民自治推進委員会　都市調和部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和５年　２月１７日（金）　１８：００～１９：００ |
| 開催場所 | 登別市役所　２階　第一委員会室 |
| 出席者 | (部会長)山下　克彦　（副部会長）荒川　昌伸  (部会員)冨永　史人、工藤　保秋、千葉　茂、西尾　拓也  (庁内委員)対馬　秀樹  (事務局)大越　智輝、佐々木　健、松下　英冬  (欠席委員)佐藤　智 |
| 議題 | ・市民に親しみのある新庁舎について |

（部会員）

　これまで数度に渡って若い世代の人たちから意見を聞き、共通していたのが季節のイベントの開催であった。このことを市の担当者に伝えることも良いが、都市調和部会としては当初、市民が考案したものを市民の手で作りあげる、一例としてはクラウドファンディングのようなものを想定していた。当初の想定や若い世代の人たちからの意見を踏まえ、今後の取り組みについて皆さんから意見をお聞きしたい。

（事務局）

　前回の部会では学生によるプレゼンテーションがあったが、欠席された委員もいるため、簡単に振り返ることとしたい。

～事務局から前回の学生のプレゼンテーション内容について説明～

（部会員）

　学生からは、自分たちが行きたくなるような場所ということで多くの提案をいただいた。また、若い世代のみでなく、小さな子供や大人、お年寄りも含めて行きたくなるような場所にしようという想いが伝わってきた。今までの市役所周辺の施設という概念を超えた提案であり、非常に嬉しく感じ、是非とも実現させてあげたいと感じた。

（部会員）

　やはり若い世代の夢、自由な発想があった。これまでの市役所では考えられないようなイメージで、自分たちが市役所に何を求めているかを示してもらった。また、学生のプレゼンテーション内にもあったが、交通網の問題は大きいのではないか。新庁舎へ足を運ぶに当たっても、免許を持っていない学生や免許を返納した高齢者にとっては遠いと感じられるため、バス路線の増発などを考えていただきたい。

（部会員）

　せっかく新庁舎は高台に移転するのだから、都市調和部会としても防災についての取り組みに重点を置くべきだと思う。学生からの意見では娯楽についてのものが多かったが、防災に関することを上位に位置づけるべきではないか。

（事務局）

　新庁舎の担当部署からも、防災機能を兼ねた施設である以上、有事の際の利用の支障とならないようにしたいという意見があった。しかし、長い年月の中で防災機能をどれほど利用するかと考えると、平時と有事のバランスを考えながら有効活用する必要があるのではないか。

（部会員）

　前回の部会が終わった後に様々なことを考えたが、市役所とは何かと考えると市の行政の中心であり、学生からの意見にあった娯楽施設が馴染むのだろうかという懸念がある。特に、バーベキューなどの提案については近隣住民との兼ね合いもある。また、市内の公園では危険性や経年劣化の関係から遊具を減らしている状況でもある。持続可能な取り組みとするためにも、１０代だけでなく、それ以上の年代の反応も考えなければならない。ただし、キャンプについては一種の防災教育にも繋がる取り組みとなると思う。

（部会員）

　世代別で求めるものは様々あるとは思うが、今の庁舎では来庁する目的は手続きのみであり、幅広い世代が集える場所を作ることは有意義なことであると思う。

（庁内委員）

　人口減少が進む中で、子育て関連の施策は重要であるが、公園の利用者も減ってくる。しかし公園の維持費や遊具のメンテナンスは必要となる。そのため市内の公園の遊具については、なるべく削減していきたいと考えている。新庁舎は市の顔となる部分であり防災機能もあることから、あまり固定したものを置くことは難しいと思う。確かに避難所となるのは何年先かは不明だが、バランスを考える必要がある。せっかくの広場なので、人が集うものとなることも考える必要がある。学生からの提言は、部会としてまとめるのか？

（部会長）

自分の当初の発想は市に提言をするというものではなく、部会として市民の力で何か１つでも作れるものがないかを探りたいと考えていた。だから本日はそのことについて部会員の皆さんの意見も伺いたいと考えている。

（部会員）

部会長が言うとおり、例えばクラウドファンディングもできれば、我々としても前進なのではないか。新庁舎にもいい効果をもたらすことができるのではないかと思う。

（部会員）

学生の発想は裏を返せば登別には無いもの、欠けているものだと思う。生徒がこういう新庁舎だったらいいねと考えてくれたので、その提言の実現を前向きに考えていきたい。人が集える場所ということで考えてくれたと思う。やはり市民は何か仕掛けがないと集まらない。それは年代によっても違ってくるが、実現できる範囲で考えていきたい。それが若者へのプレゼントにもなると思う。

（部会長）

今後は（デジタル化に伴い）市役所に来る目的もなくなるため、市役所の最も大きな役割は防災拠点になるかもしれない。

（事務局）

当初都市調和部会では新庁舎に現在の庁舎と同様に用事がある人だけが来るのではなく、用事がない人でも幅広く集まるような庁舎にするための取り組みとして始まった。

（部会員）

テントを置けるスペースは災害時にいいと思う。幌別の観光の拠点としてもいいと思う。登別温泉だけではなく、幌別にも観光施設をつくり他の地域へも波及していけばいい。併せて地域住民も来られるような施設としたい。

（部会員）

水道やたき火スペース、ベンチがありキャンプができれば防災拠点としても活用できる。

（部会員）

夏祭りを開催している川上公園は、駐車場が少ないし街から離れている。街中でスペースがあれば、その後飲食店街にも人が流れていく。

（部会員）

何か１つ、都市調和部会としてやりたい。

（部会長）

お金やスペースをかけるものもできない。そのあたりを踏まえて次回の部会で再度皆さんと検討していきたい。

●次回日程：令和５年４月頃に、部会員との調整の上で決定することとなった。